

レジュメ・PP資料等の閲覧方法

毎回のレジュメ・パワーポイント資料、およびこれまで話した内容の一部は、インターネット上の以下の場所にあります。

① 日本近現代史の授業中継 <http://jugyo-jh.com/nihonsi/>
⇒ g o o g l eなど検索エンジンですぐヒットします。

② 近現代史を考える講座

ONCCの講座にかかわるすべてのレジュメ・資料・講義内容のより詳しい内容を見る事ができます

⇒上記、ホームページ画面の「近現代史を考える講座」をクリックしてください。

前回質問があったアヘン戦争については以下のリンクから

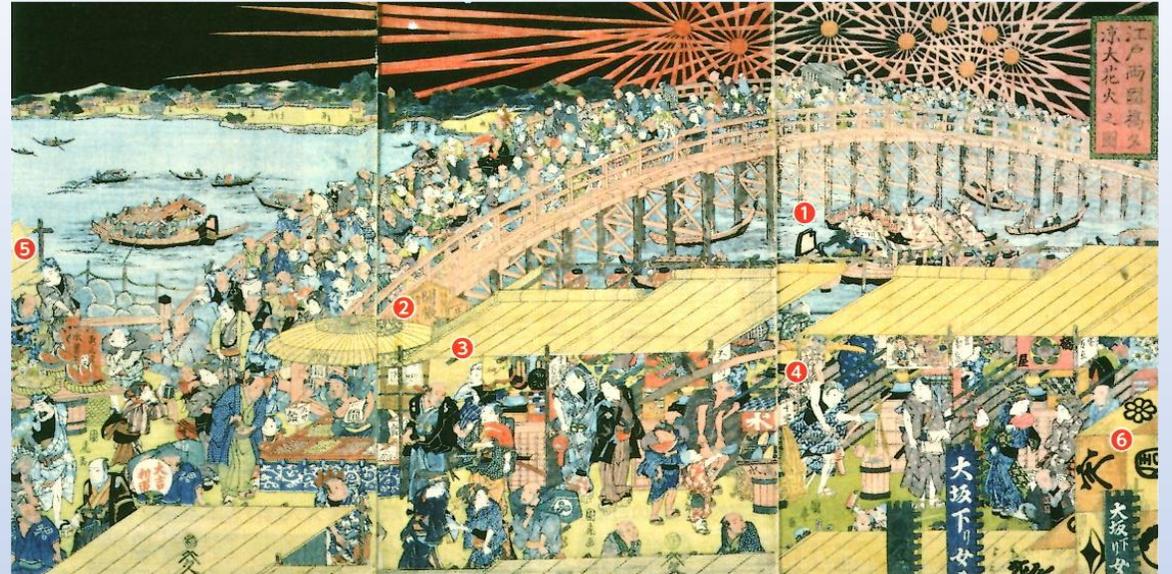
日本の近現代史（第4回）

明治維新と文明開化

[\(http://jugyo-jh.com/nihonsi/\)](http://jugyo-jh.com/nihonsi/)

明治維新とは

19世紀後半の日本において
江戸幕藩体制が崩壊、
近代統一国家と明治
新政権が形成された
一連の政治的社会的
変革のこと。

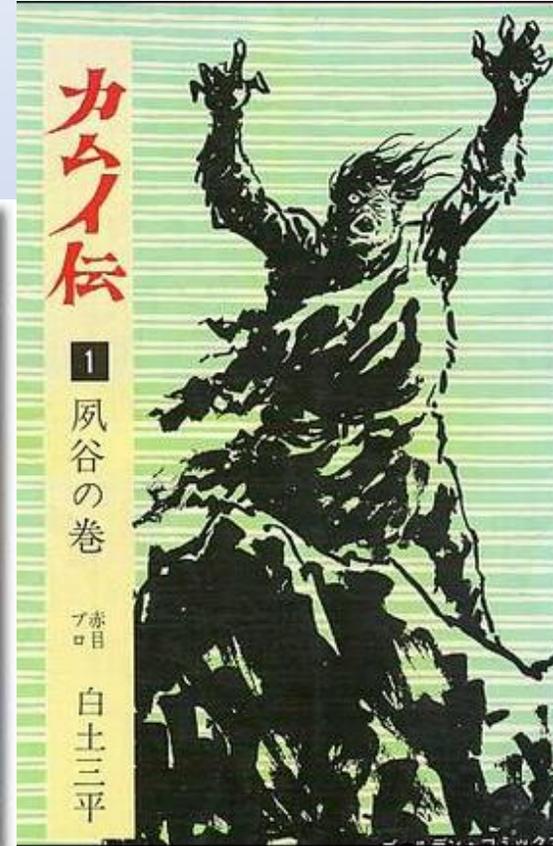


明治維新の始期

- ①寛政期(19世紀初)…ラクスマン来訪・寛政改革・光格天皇
⇒世界史段階に注目、幕藩制再定義＝鎖国論・尊王論
- ②天保期(1830～43)…天保飢饉・大塩平八郎・天保改革
⇒内的要因重視…経済発展・階級関係の変化
- ③ペリー来航(1853) または通商条約締結(1858)
⇒外的要因重視…世界資本主義への包摂・民族的危機
- ④元治・慶応年間(1864～68)の倒幕運動
⇒軍事面を中心に

1、江戸時代はどんな時代だったのか？

Q：「江戸時代」というと……



江戸時代はどんな時代だったのか

(1) 暗黒時代・抑圧され沈滞した社会 = カムイ伝の世界

① 悪辣で人々の苦しみには無頓着な武士 = 支配者

苛烈で残酷、容赦ない百姓などへの収奪

権力を振りかざすお役人（「水戸黄門」「青天を衝け」の一面）

⇒ 「切り捨て御免」「大名行列と土下座」「賄賂と汚職、特権意識」

近代歴史学が描く
江戸時代像

② 苦しい生活を強いられる無力な庶民・・・だけか？

相次ぐ飢饉と墮胎、百姓一揆や直訴と磔、身分差別

⇒ 「生かさぬよう殺さぬよう」「百姓とごまの油は…」

当時の人々の視線
渡辺京二氏ら
現代歴史学の時代像？

③ 鎖国 = 世界から隔絶され、後れをとってしまう

(2) 平和で、貧しいが心豊かな時代 = 古典落語・山本周五郎の世界

人情あふれる庶民（おもに都市に住む）がその日その日を懸命に生きる

浮世絵・浮世草子の世界

⇒ 「水戸黄門」慈悲深い殿様と悪いお役人、誠実に生きていく「庶民」？

(3) 平和ではあるが… = 忠臣蔵、近松門左衛門、藤沢周平の世界

身分社会の中、懸命に定められた運命を生きる = 分を守って生きる人々

「平和」な江戸時代とは

幕藩制国家は、**<敵>**を排除しその内部をひとつの**<平和領域>**として構成し、そこに安穏と秩序とを実現していることに**正統性根拠**をおいていた。

ペリー来航によって外なる**<敵>**に有効に対処しえないことが暴露されると、その権威はたちまち動揺し、権力として実効ある支配を実現しえなくなった。（安丸良夫「1850～70年代の日本」）

「敵」とは何か

- ① **「異国」**、その象徴としてのキリシタン
- ② 身分・社会秩序を乱す **「分をわきまえぬ」** 思想やふるまい
⇒ **自由や権利に抑圧的で変化を嫌う、その中での平和**

幕藩制・身分制のもとで生きる

「カベ」で守られていた「日本人」

日本全体を囲むカベ＝「鎖国」体制

自己完結するようになった社会経済＝「ガラパゴス」的進化

ヨコのカベ＝「幕藩体制」（＝封建制）

人びとは藩という「小国」、さらに「村」などで区分される。

タテのカベ＝「身分制度」

人は「分」をまもり、共同体のルール内で生きるもの

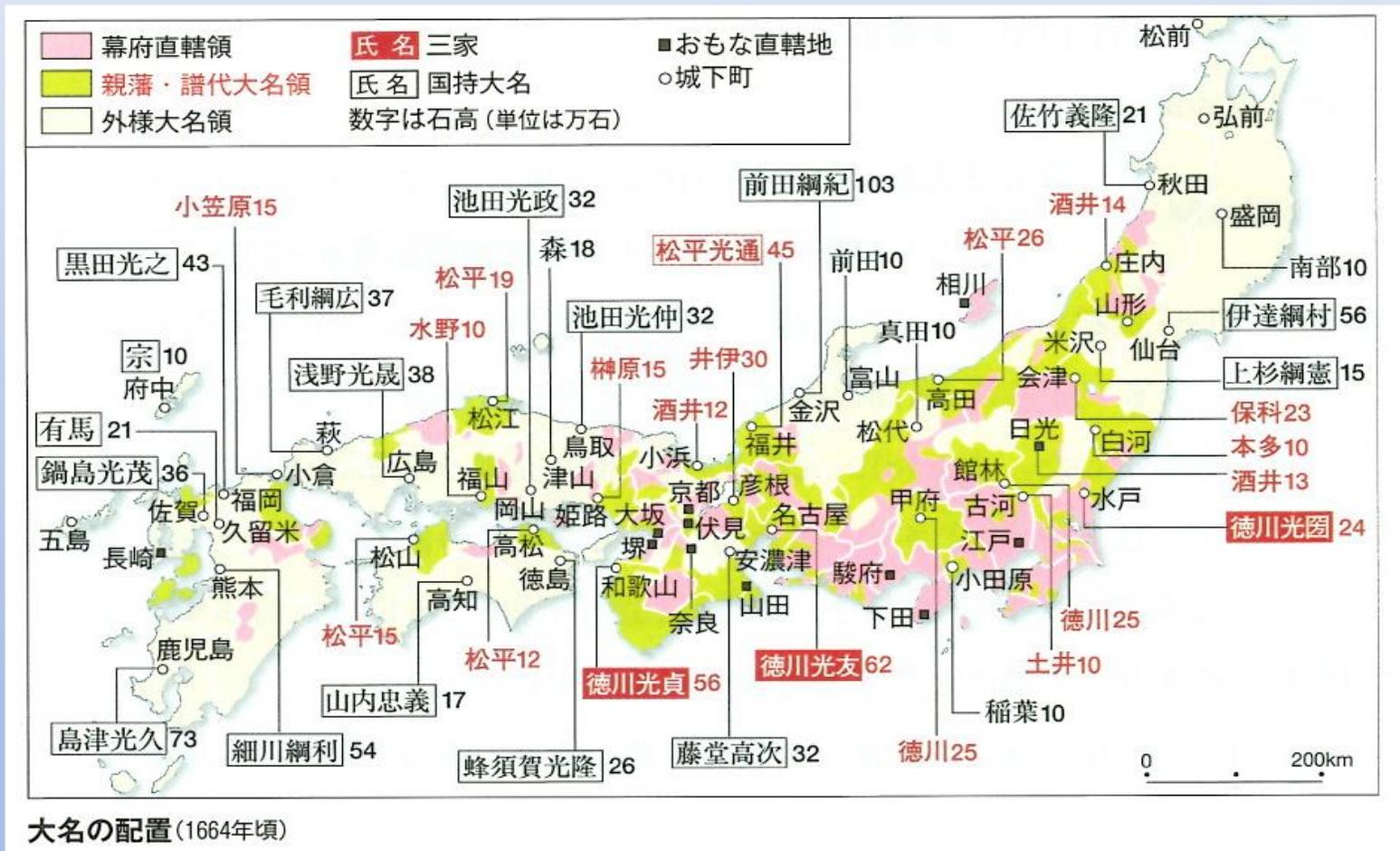
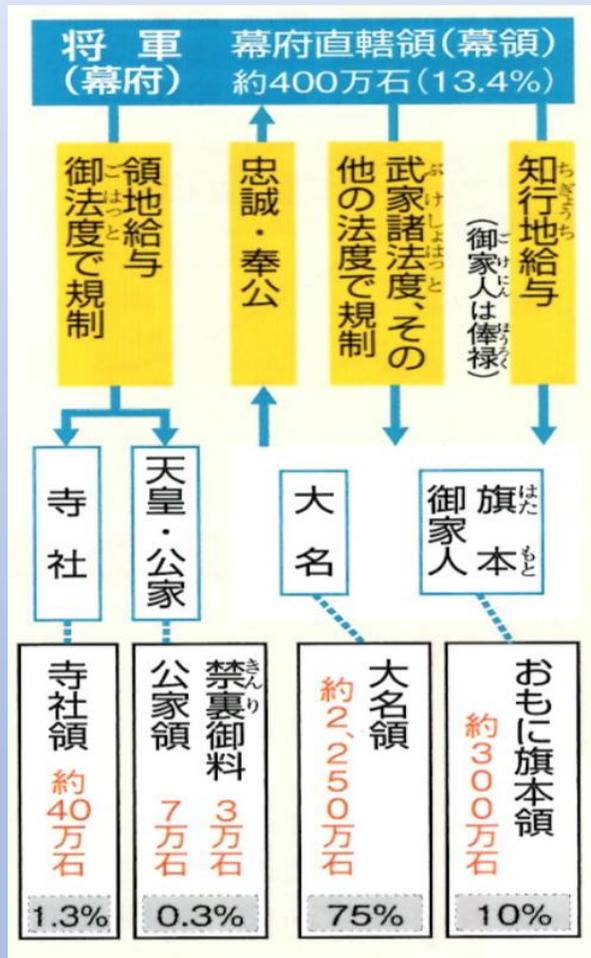
「差別は当然」「平等は許されない時代」でもある。

→明治維新は、鎖国・幕藩制度・身分制度などの

「カベ」を壊し、均一な国民国家＝日本人を形成した。

近世=カベによって分断された社会 「ヨコのカベ」 幕藩体制=領主ごとで分断された日本

幕領・旗本領+大名領(藩)+禁裏・公家・寺社領など



近世＝カベによって分断された時代、「タテのカベ」
年貢さえ払えば百姓ほど楽なものはない！

身分制の下での「平和」

身分ごとに役割が定められる社会

「百姓」「町人」は政治・軍事面では「客分」でいけばよい

- 「分をわきまえた」生き方によって実現された「平和」
「士」…人びとを守り「仁政」を実現/「年貢」を受け取る
「百姓」…「年貢」を納める/「平和」にくらす事ができる

村の二面性

「村請制」＝村で一括し年貢を払う。村役人の責任重大。

百姓の保護と「村」の自治を保障、年貢納入の連帯責任制

⇒円満な領主支配と年貢収奪＝「平和」を実現させた。

明治維新の一つの意味

主権国家・国民国家 (ネイション・ステイト) をつくること

- ① 国境に区切られた一定の領域からなる、
- ② 主権※を備えた国家で ⇒ 中央集権化・天皇制国家確立
- ③ その中に住む人びと (ネイション=国民) が国民的一体性の意識 (ナショナル・アイデンティティ) を共有している国家
⇒ 「国民 (日本人)」の形成 (木畑洋一の定義)

※1 国民および領土を統治する国家の権力。統治権。

2 国家が他国からの干渉を受けずに独自の意思決定を行う権利。

3 国家の政治を最終的に決定する権利。(「デジタル大辞泉」より)

Ⅱ，明治政府の成立

大政奉還



五か条の誓文



明治維新の「引き金」としての「開国・開港」

「開国」＝諸列強の登場

→ 「国力の差」(軍事→産業→ソフトパワーへと認識の深化)

→ 「皇国」のプライドを傷つける！⇒屈辱感と復讐心

日本が汚され、呑み込まれる！との危機感

→日本全体が「強迫神経症」状態に

これが完癒できたのはいつ？

対抗するには挙国一致体制(オールジャパン)が必要！

シンボルとしての「天皇」(⇒「破約攘夷」を希望)

⇒尊王攘夷運動の高揚、しかし勝算はない・・・

最大の論点：幕府の下で挙国一致は実現できるか？

→幕府内には「幕府の専制の方がよい」との見解も

→幕府がオールジャパンの「抵抗勢力」との声も

幕府を倒そうと本気で思っていた人はいたのか？

「万国対峙」を実現するために 幕府の権力を奪う

危機を乗り越え、屈辱を晴らし、挙国一致を実現する！

幕府(とくに改革派)への期待⇒次第に不信・脅威へ



幕府打倒のクーデタ (王政復古) の実施 (慶応3・68)

「復古」= 天皇の権威を利用

改革派のおかげで
勝利目前だった…

幕府の失策 = 鳥羽伏見の戦い (慶応4・68)

新政府に暴力の行使 = 慶喜追討令のきっかけを与える

→ 戊辰戦争の発生 (慶応4・68～明治2・69)

「官軍」が「賊軍」(旧幕軍)と戦うとの形式に

研究の到達点

大政奉還・王政復古時の指導者の認識は

新政府の指導者が新たな秩序について明確な設計図
をもっていたわけではない！

<存在していた大まかな合意> = 薩土(芸)盟約 (船中八策) など

天皇の下に統一、公議を体現する国政樹立、人材登用
開国と条約改正、国政刷新、日本軍(海軍)?の創出

<一部のものの予測> 寺島宗則・伊藤博文 (伊達宗城?!)
「近い将来には中央集権化～日本の完全統一
(⇒「廃藩置県」)が必要」かも

過激！
だが口に出
さないだけ
では？

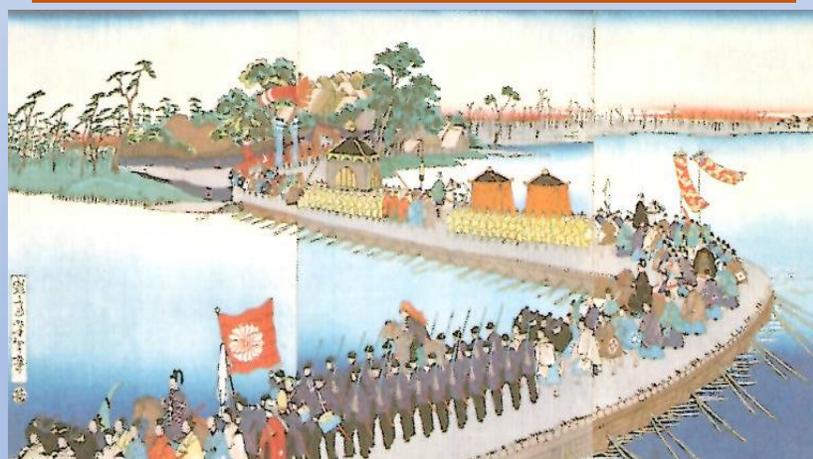
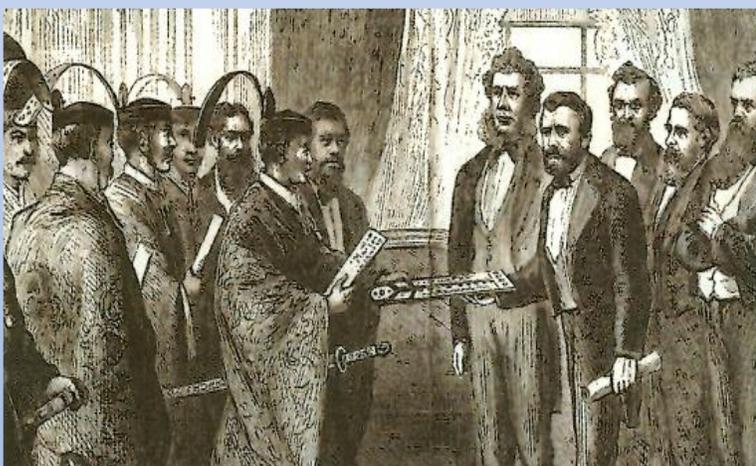
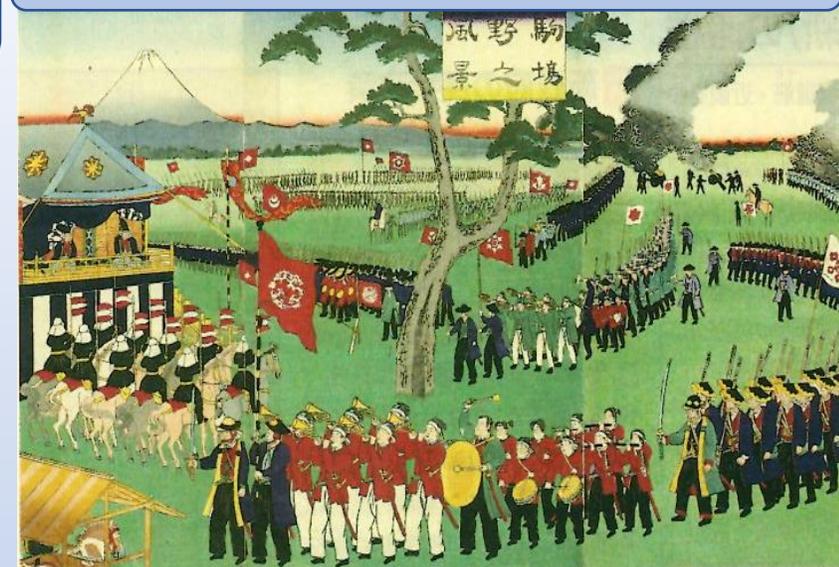
戊辰戦争の継続

財源 = 戦費の確保

バラバラな諸藩



次々と
押し寄せる
課題



列強との関係
攘夷か？開国か？

天皇の姿を変える

民衆の向背

走りながら考えるしかない政府

神戸事件…1868年1月、岡山藩兵と英・仏兵との間の紛争。

対外関係の悪化を恐れた新政府は、**各国公使に陳謝**し、家老の家来滝善三郎に責任をとらせて自刃させた。

堺事件…1868年3月、堺警備の土佐藩兵とフランス水兵との衝突事件。新政府は**この事件を陳謝**し、関与した土佐藩士を切腹させた。

→井上勝生の評価…旧幕時代とは異なって欧米の要求を先取りした過酷な処刑を進んで行い、**欧米の文化に**

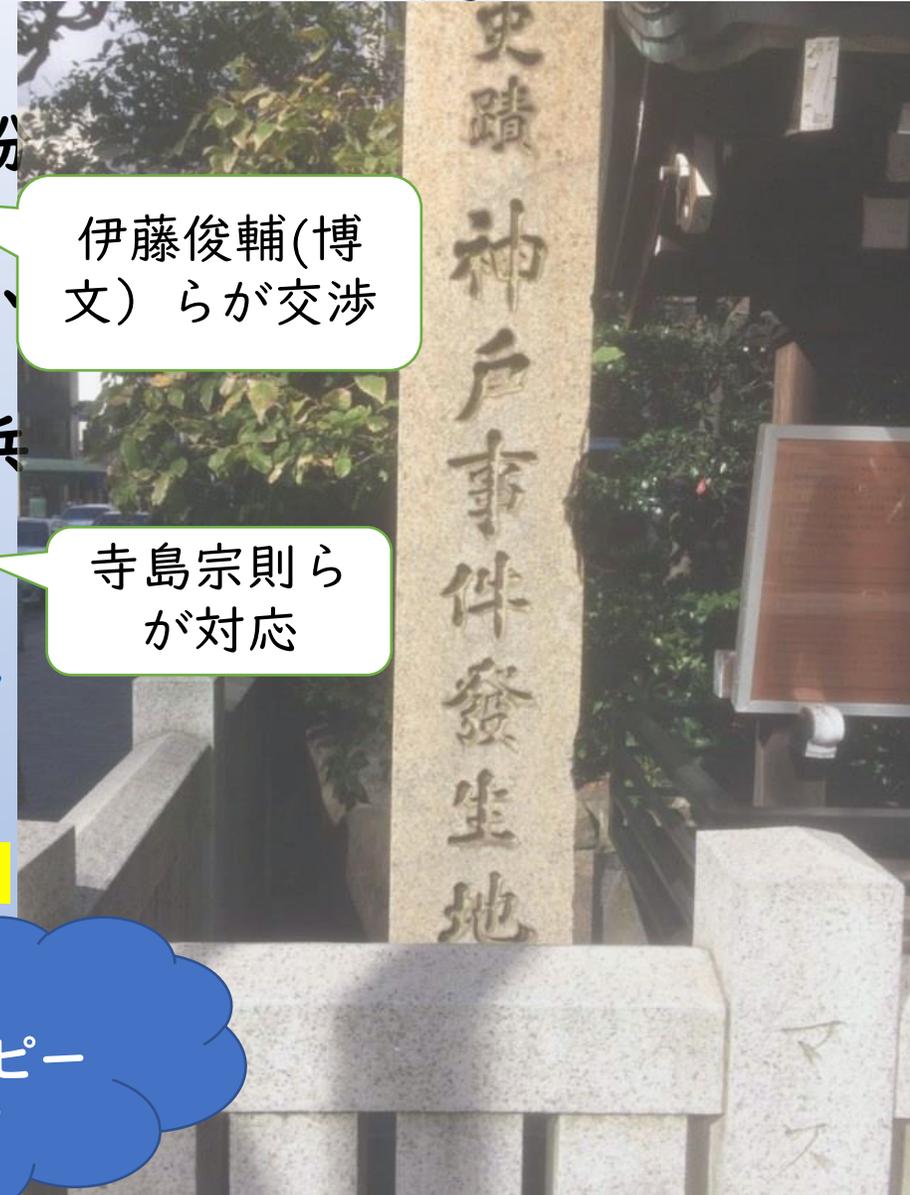
同化する（文明を取り入れる）道を歩き始めた。

パークスは、欧米を手こずらせた**旧幕府との関係より「ずっと良い」**と夫人に知らせている。（『幕末・維新』）

伊藤俊輔(博文)らが交渉

寺島宗則らが対応

問題は
決断力とスピードでは？



「五か条の誓文」

もとは役人間の「申し合わせ」
のため作ろうとしたもの。

1868年3月、明治天皇
が公家、諸侯や百官
を率いて天地神明に
誓約する形で発表し
た維新政府の基本方
針。

もとは天皇と諸侯が互い
に向かい合って誓い合う
形だった



欧米型近代国家をめざす宣言 五か条の誓文

- ・ 広く会議を興し万機公論に決すべし
- ・ 上下心を一にして盛に経綸を行ふべし
- ・ 官武一途庶民に至る迄各其志を遂げ人心をして倦まざらしめんことを要す
- ・ 旧来の陋習ろうしゅうを破り天地の公道に基くべし
- ・ 智識を世界に求め、大に皇基を振起すべし

江戸時代の伝統社会を「陋習」とみなし、未開とする欧米の見方にみずから同調した。(井上勝生)

欧米の文明（「智識」）を摂取して、天皇制近代国家の基礎（「皇基」）をつくるという開化方針（井上勝生）



一廣く會議を興し萬機公論に決すべし
一上下心を一にして盛に経綸を行ふべし
一官武一途庶民に至る迄各其志を遂げ人心をして倦まざらしめんことを要す
一舊來の陋習を破り天地の公道に基くべし
一智識を世界に求め大に皇基を振起すべし
我國東有、變革、為、
朕躬、以、衆、先、天、地、神、明、誓、
大、新、國、是、迄、萬、民、保、全、道、
五、條、亦、此、旨、趣、其、協、心、努、力、

五か条の誓文がめざす 「新しい日本」 の方向

「日本は古くさいルールや考え（「陋習」）があふれている。
世界の知識を学び、本来のあるべき道を考え、日本の発展
を図らなければならない」



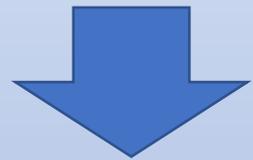
- ① 天皇を中心となって政治を行う。
→これが日本古来のやり方（復古）
- ② 攘夷主義はとらず、積極的に開国し、外国文明を受容

新政府の実情は・・・

権力は奪ったが、将来のプランはない！

大名や公家たちが集まり、タテマエはいうが

→戦争指揮・外国対応・財政・民衆やテロリスト対応など、緊急の案件が山積



大久保・木戸・西郷・岩倉・三条・
大村・由利・大隈・伊藤・井上・山県
渋沢・寺島・五代らも

結局は、事態を掌握でき、構想力と実行力のあるリーダーに「仕事⇒権力」が集中する。

その命令は「**天皇の意思**」として正当化される。

維新政権の出した方向性は！

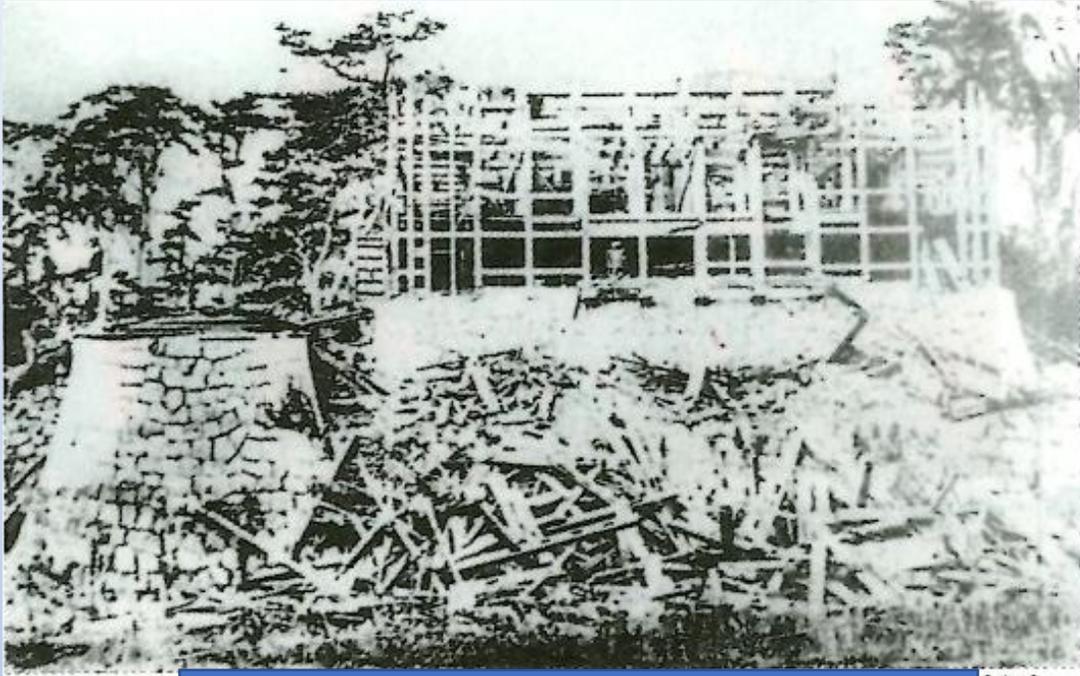
欧米型近代国家をめざす！＝「富国強兵」

→これこそ「神武創業」への復古と強弁

- ・外交＝「万国公法」体制の受容→「条約改正」の実現
- ・制度＝西洋型の法体系、経済・財政制度導入＝「地租改正」など
- ・軍備＝国民皆兵の近代的「国民軍」創出
- ・産業の「近代」化・インフラの整備＝「殖産興業」
- ・近代国家に適合する「国民」の創出
- ・文化＝欧米文化の輸入＝「文明開化」
 - 伝統的・民衆的文化の否定（「陋習を破」る）

強力な政治指導部確立と国家目標の定着が必要

IV, 廃藩置県＝中央集権国家への道



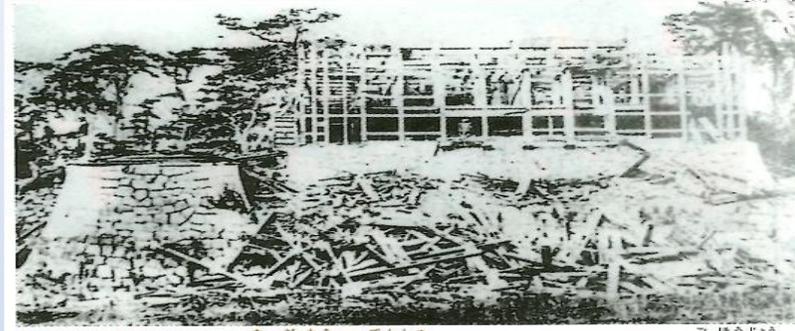
破壊される小田原城



陸軍施設（鎮台）となった熊本城

廃藩置県～「ヨコ」のカベの解体～

明治4年(1871)明治政府が**中央集権化を図るため**、**全国261の藩を廃して府県を置いたこと**。**全国3府302県がまず置かれ**、**同年末までに3府72県**となった。
(デジタル大辞泉)



解体される小田原城天守



新たにおかれた府県

戊辰戦争の結果 = 「藩」の弱体化

- ① 諸「藩」の財政危機は致命的に
- ② 「藩」政に戊辰戦争に参加した下級武士らが参入
- ③ 藩の主体性は失われ「府・県」同様の地方機関に
→ 家老などの廃止、新政府の定める職制に統一
- ④ **版籍奉還(1869)** = 土地・人民を監督する**地方機関に**
→ 旧藩主は「知藩事」という地方官僚に
→ 藩士との上下関係は解消される。

「半独立国」としての「藩」の解体が促進される。

廃藩置県への道→予想外の展開に

廃藩置県直前の状況～危機的状況に

- ① **百姓一揆**が激化…内容の過激化。竹槍の使用や放火など
- ② **武士などの抵抗**…奇兵隊の反乱、テロ・反乱など
- ③ **旧藩などの統治能力の低下**・中央からの指示の不徹底
大藩での急進的改革…高知・和歌山など
- ④ 藩財政の破綻→ **あいつぐ「廃藩」の申し出**
- ⑤ 政府官僚と出身藩の関係調整の困難さ…旧藩主への配慮
- ⑥ 「公議政体論」志向の根強さ

「手をこまねいて瓦解するぐらいなら、藩を廃止し中央の命令が末端まで届く中央集権的な日本につくり変えよう！」

日本史上最大級の変革

「廃藩置県」 = 中央集権国家に

- ①知藩事 (=旧藩主) を全員解任、東京へ
- ②県の設置 名が変わる → 半年後に整理統合 (302 → 72)
- ③中央から県令を派遣。

<結果>

- ①県令のもとで、**中央政府に忠実な統治 → 改革**を強行
中央の命令は**個々の人民へ直接届く**ように。
- ②**政府への対抗軸が消滅** = 公議政体論の基盤の消滅
- ③薩長土肥出身者による**藩閥政治が進行**。

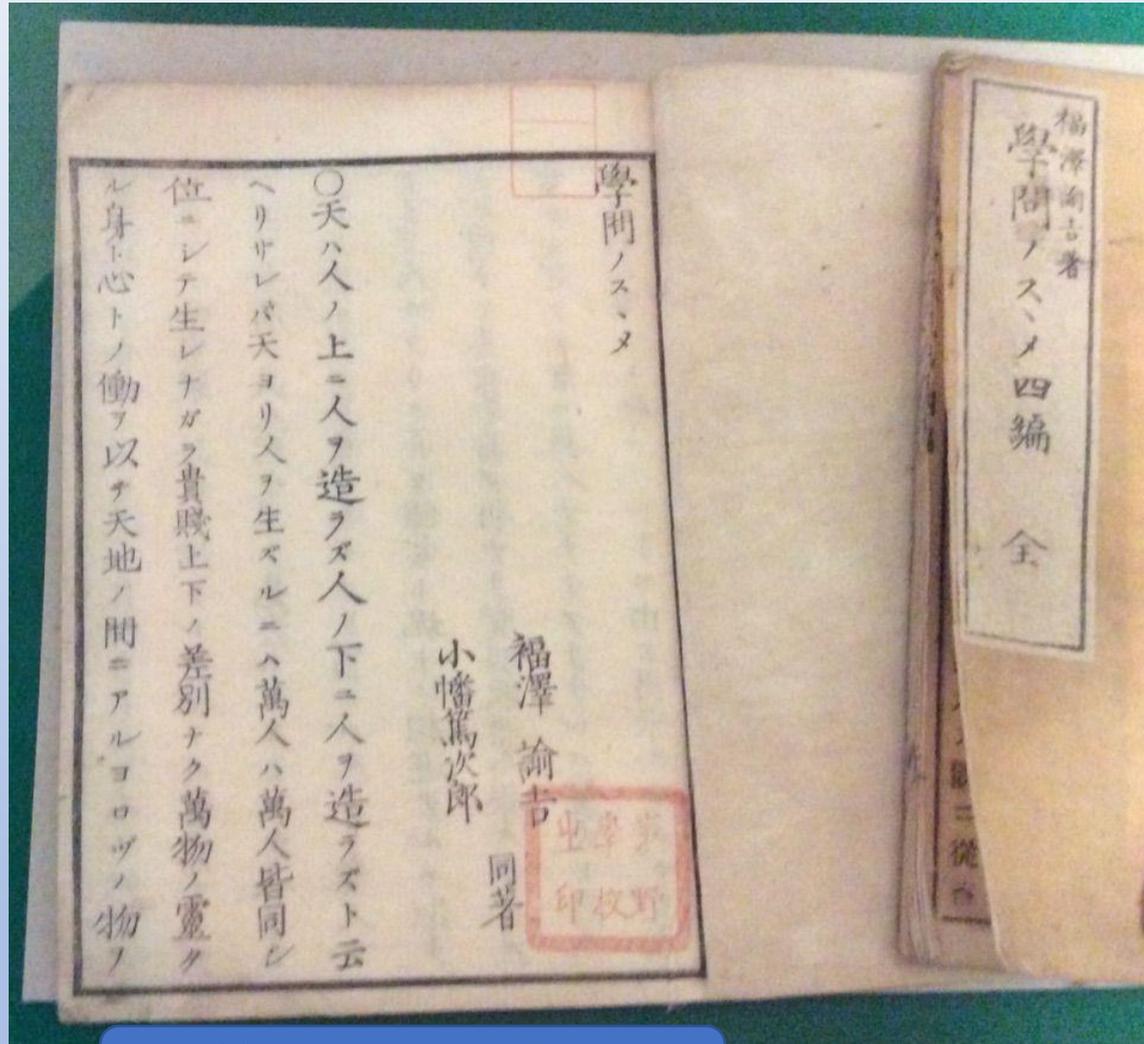
廃藩置県の意味

人びとにとっての廃藩置県

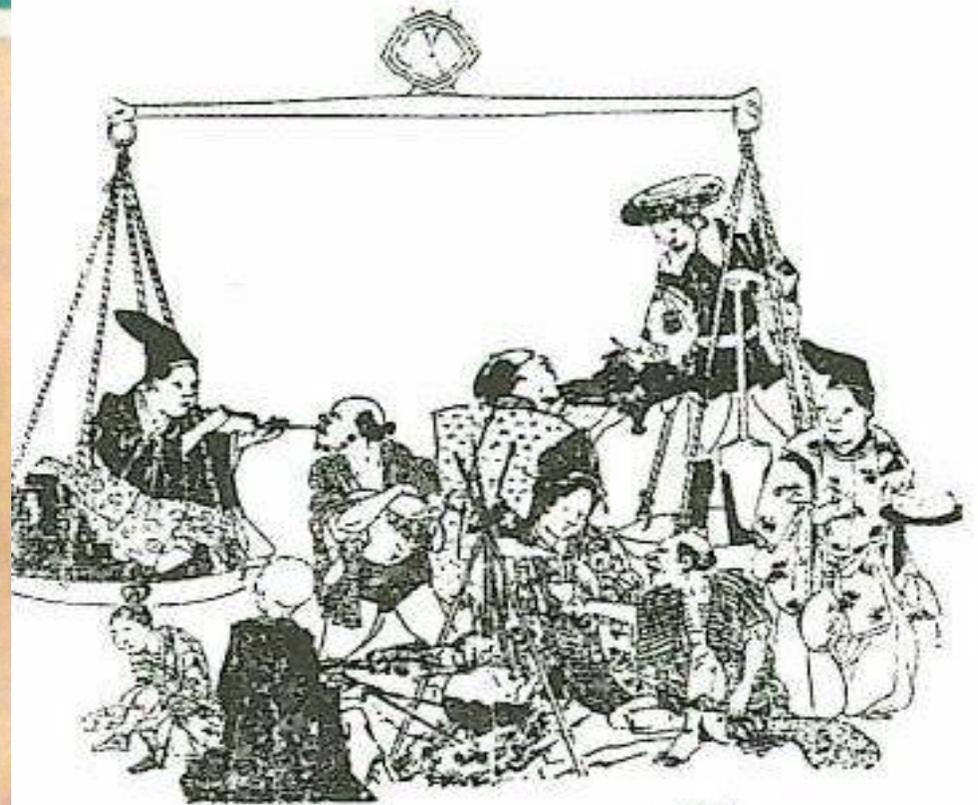
- ①藩主…「華族」の身分と、旧藩の収入の1/10のお金をもらい、仕事もせずに暮らしていきける。
- ②武士…「会社と仕事」を失う。給料も…（**秩禄処分**実施）
- ③庶民…隣藩とひとくくりとなり、訳の分からん「よそ者」が強引な政治＝改革実施→**新たな改革としての「地租改正」**

幕藩体制の下で、人々は藩という小さな国や地域に分断され、その枠の中で、生き、働き、考え、死んだ。廃藩置県はこの基礎である「ヨコ（地域）のカベ」を破壊した。

V, 「四民平等」～「国民」の形成へ



学問のすすめ



【四民平等】「天地の秤はかりにかけて人民に上下の別なき図」と、四民平等を主張している。

江戸＝身分社会とは

「わきまえた」生き方が求められる社会

身分ごとに役割が定められる社会

「百姓」…年貢を納める。「町人」…流通を維持・役を負担

「かわた」の義務…皮革製品を生産し、下級役人として奉仕

政治・軍事は「(武)士」の役割

⇒「百姓」「町人」は「客分」でよい社会

「分をわきまえた」生き方⇒忖度が求められる社会

⇒「身分」「地位」「立場・役割」「家柄・家格」

「性別」・・・

身分制の克服＝「タテのカベ」の撤廃

福沢諭吉『学問のすすめ』より

「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」と言えり。
されば天より人を生ずるには、万人は万人みな同じ位にして、生まれながら貴賤上下の差別なく万物の靈たる身と心との働きをもって天地の間にあるよろずの物を資とり、もって衣食住の用を達し、自由自在、互いに人の妨げをなさずしておのおの安楽にこの世を渡らしめ給うの趣意なり。



福沢諭吉

「タテのカベ」の排除・幕末には 身分制からの解放をめざす動き

「身分のカベ」を打破しようとする動き

- ・ 幕末の志士…外様藩出身・下級藩士や郷士・足軽・中間
百姓身分である豪農、町人…。

- ・ 奇兵隊・新選組など…身分を脱出し武士をめざす

身分制を超える動き = 「一君万民」思想など

- ・ 国学・水戸学…「すべての人間は天皇の民である」
- ・ 能力主義…学問とくに、実学・洋学の重視
- ・ ナショナリズム…「日の本の危機」という危機意識
- ・ 私塾・道場、俳諧・旅絵師など

「タテのカベ」の排除

「四民平等」 = 身分制の「廃止」

① 居住・職業・結婚など身分制を特徴づける制限廃止

- ・ 明治2年…農工商を「平民」に。姓を名乗ることを承認
- ・ 明治4年…「解放令」 = 「えた・非人」の呼称廃止、平民化
- ・ 明治5年…田畑永代売買の禁令などの決まりを廃止

② 士族の解体 = 廃刀令(1876)、秩禄処分(1877)など

秩禄を全廃、領主権を有償廃止、特権は族称のみに

③ 身分制度の再編

- ・ 「皇族」 = 天皇の一族 「華族」 = かつての貴族と大名
- ・ 「士族」 = それまでの武士。秩禄処分により俸禄も失う

「タテのカベ」排除の背景 近代軍と身分制＝克服すべき課題

近代戦における軍隊＝指揮官の命令一下、集団として行動することが求められる。

→学校の役割＝「体育」・行進訓練・各種行事

→「領主軍」＝武士では困難。身分制度と矛盾

→奇兵隊に見られる「国民軍」の優位

実力主義＝門閥・家柄の原理をこえた軍事組織

→新撰組の強さの根拠でもある

⇒1872徴兵告諭＝国民皆兵をめざす⇒1873徴兵令を公布

徴兵告諭¹⁸⁷²と徴兵令¹⁸⁷³

山県有朋らの建議により発せられた。

国民のすべてが兵役に服する義務を負うという国民皆兵の原則にもとづく。

徴兵を嫌った庶民は、他人の養子となって免役を得ようとしたりした（徴兵養子）。

徴兵告諭の文字（「血税」）の誤解と新政府に対する不平不満が結びつき、各地に血税一揆も発生した。



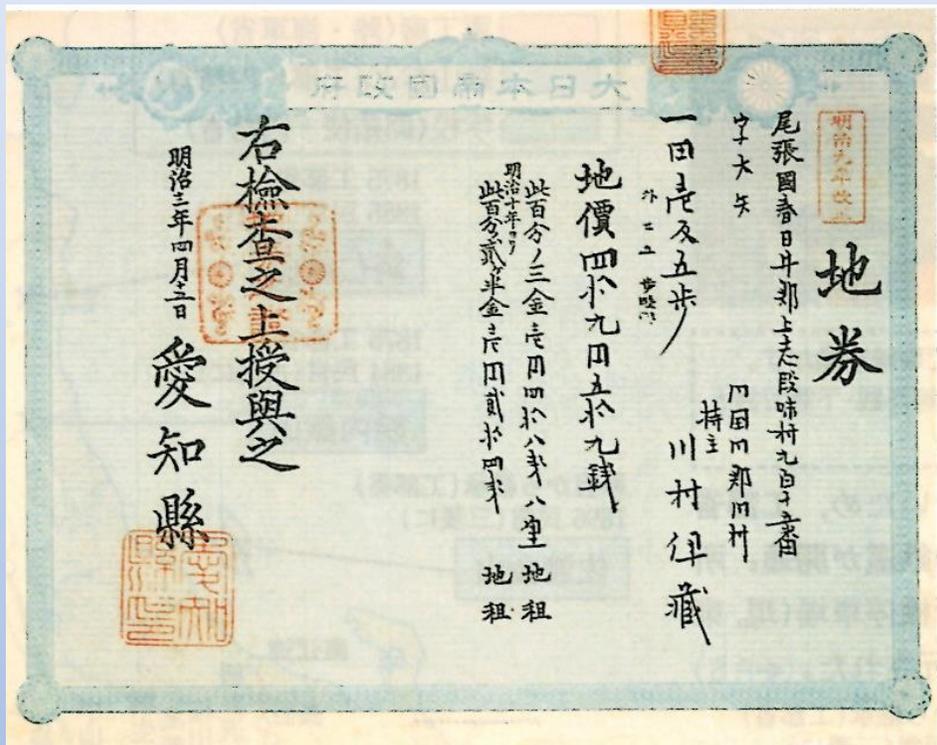
▲青年たちを徴兵検査場へ連れていく戸長

「四民平等」の現実と維新の限界

- ① 明治維新の主要課題は自由や平等ではなかった。
⇒ 列強と対抗しうる近代国家形成がメイン。
- ② 「四民平等」は、近代国家の形成（軍隊の形成、資本主義化など）の必要性から実施された面が大きい。
- ③ 目的からみて不要な、障害となる近代化は実施しない。
⇒ こうした課題は、自由民権運動などで問われる。
- ④ 結果としての「江戸時代」の残存
 - ・ 「『家』観念」や「男尊女卑」など身分制的倫理が残存
⇒ 民法などに取り込まれる、「わきまえる」生き方
 - ・ 士族のエリート（身分⇒学校）化、社会の中枢に
 - ・ 「部落問題」=旧身分制度と近代社会の矛盾が結合

VI, 地租改正

～「百姓」が農民に変わっていく



地租改正とは(1873~81)

明治政府が、**財政的基礎確立のため**、**地租改正条例**に基づいて施行した**土地制度**、**租税制度**の改革。

徳川封建体制から明治以後の資本主義体制への転換期における最も重要な改革の一つ

<主な内容>

- ①近代的土地所有制度の確立
- ②近代的租税制度の基礎の整備
- ③財政制度の基礎
- ④**農民=地方のあり方を激変させる**
⇒「寄生地主制」へ



地租改正・村請制廃止→農村の激変へ

村でまとめて（村役人が責任を持って）年貢を払う仕組み。

- ①「**村請制**」の**消滅***=払えないものを「**村**」は助けられない!
- ②地租は**個々の農民**が支払う=払えないのは「**自己責任**」!
- ③有力農民（旧「**村役人**」層）の責任が軽減される
村民へのドライな対応や**収益を求めることが許される**
- ④地租の金納化=収穫物の売買 →貨幣経済の浸透
- ⑤土地の自由売買=**土地の流動化**=貧富の差の拡大
- ⑥共有地=「**入会地**」の喪失→再生産のサイクルが壊れる。

近世農村の解体～松方デフレ(1881～)

松方デフレ(1881～)

= 農産物の価格暴落、一転農村不景気に

- ①税金や借金の返済できない農民が大量に発生
⇒ 秩父事件など**激化事件の発生**
- ②有力地主の出現 = 農業収益よりも地代収入へ
⇒ 「**寄生地主制**」の形成

都市への人口流出

- ①エリートとしての上京(「三四郎」型)
- ②都市貧民層への流れ

近代とは…相互依存相互監視の社会を捨て、
自己責任と競争にもとづく「自由」を実現すること

VII, 「文明開化」と『日本人』の創出



文明開化といえは

ザンギリ頭を叩いてみれば文明開化の音がする



髪型は身分を示す標識でもあった。



チョンマゲ頭を叩いてみれば因循姑息の音がする

因循姑息（いんじゅんこそく）
古い習慣に頼って、その場をしのぎようとする。また、そのさま。

文明開化の実際

①生活の洋風化（「開化」物）＝大都市中心

シャボン、ランプ、洋傘、シャッポ、洋服や洋館、ガス灯、
和洋折衷建築、牛鍋

②「開化」政策＝「上からの洋風化」

近代的工場・鉄道・郵便制度・銀行制度・学制・散髪・
廃刀・太陽暦・新たな祝祭日

③「開化」の全国波及＝メディア整備 新聞、雑誌、錦絵

文明開化の宣伝教化の出版物、布達や教導職、博覧会

一般的説明…**明治初年，政府の西洋近代文明の撮
取による近代化政策から生じた社会風潮…**

文明開化の風景～新潟県令楠本正隆

裸体禁止・断髪強制、道路の清掃・拡張、都市中心部からの藁屋敷の撤去など風俗取締を積極的に進める。

他方、役人と人民の席の高さを同じとし、人民の話をよく聞く良吏でもある

楠本はもと外務省の官僚

これまでは“下賤のもの”が華美に流れることが問題。

楠本の論理

外国人が見て、「野蛮・未開」と思われるような状態は許されない。

→民衆も「日本を構成する一員(=「**国民**」)」なのだから

欧米人=「文明」の目を強く意識する(「世間体」の国際版)

「文明」の担い手としての官僚

欧米文化は「文明」、日本とくに民衆は「未開」との前提

⇒外国人（「文明」）の目を意識「同じ日本人として恥ずかしい」

武士の「農・工・商」に対する「目」、「選良」意識とも一体化



文明＝政府の政策をすすめる県令たち官僚が、「頑迷固陋」な民衆・地方を「開化」という構図に

⇒政府の指示に従えば「文明」従わないものは「未開」

「文明開化」はまず、風俗（日常生活）統制、

さらには「衛生＝不衛生」の強調としてあらわれた。

規制の拡大＝刺青、道路や川への汚物投棄、荷車・人力車による通行妨害、春画販売、喧嘩の禁止など



「欧米化」ではない文明開化

①明治維新は天皇中心の国に戻ること＝「復古」

⇒「明治維新で本来の姿・文化を取り戻した」と考える

②それまでの時代はあやまった文化や信仰がはびこっていた時代

神仏分離・廃仏毀釈＝**仏教の否定**

- ・山伏や虚無僧、祈禱師など民間信仰を淫祠邪教として禁止
- ・神号を神話に合わせて変更させる＝伊勢神宮中心に神社を系列化
- ・新たな「神」（織田信長など）の採用＝天皇との関係性を重視
- ・太陽暦（＋皇紀）の採用
- ・天皇中心の祝祭日の制定と五節句の廃止、盆踊りなどの禁止

キリスト教弾圧→二つの「文明開化」の間の矛盾



神道国教化から国家神道へ

① 神道国教化政策

日本人をすべて「神道」=天皇教の信者にさせることを目標に
⇒ 神仏分離令、神祇官⇒教部省設置、キリスト教弾圧など
仏教は外来の宗教・民間信仰は淫祠邪宗 = 「未開・野蛮」視

② 「信仰」は、上から都合良く作れのか？

⇒ 「神道」の教義の未熟さを、仏教徒とくに真宗教団が批判



③ 政府の方針転換 = 「神道は宗教でなく、日本古来の伝統」

⇒ 宗教(仏教・キリスト教・教派神道)と神社信仰は矛盾しない

⇒ 「国家神道」の成立

文明開化の中かの「国民」

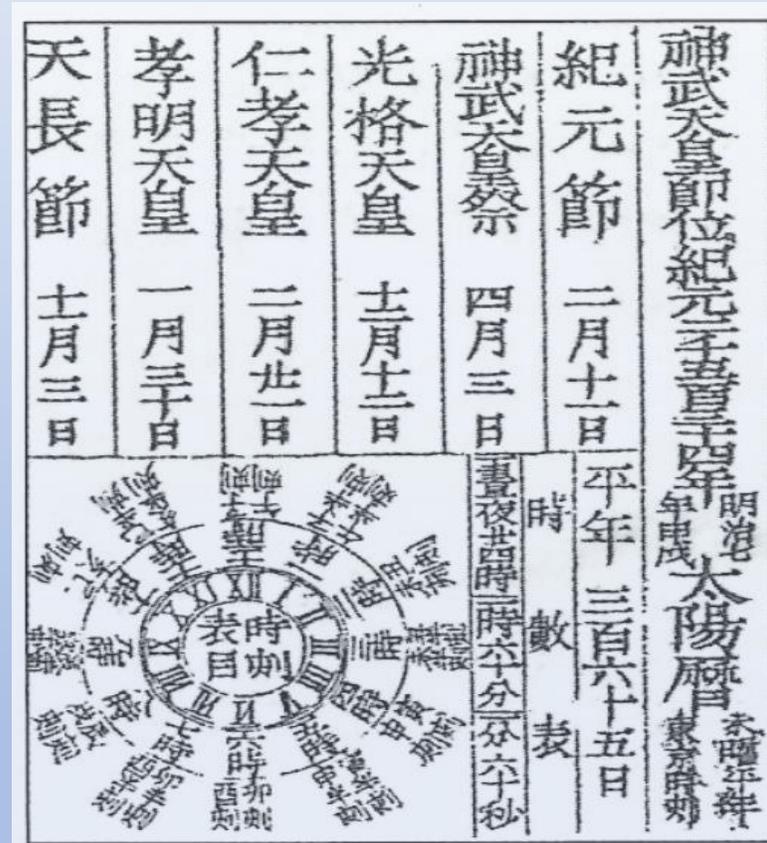
明治の「日本人」は、二つの「文明」を求められた。

- ① 欧米文化の立場からみた『文明国の国民』
- ② 天皇に忠誠を尽くす『臣民』としての日本人
天皇は欧米文化導入の担い手としても位置づける
= 「文明開化」のトップランナー

この観点から

人びとの生き方・伝統文化、風俗・習慣などが

「文明」か、「未開」「野蛮」か、判断される。



民衆にとっての「文明開化」
「新政府は異人が支配している」

これまでの『当たり前』が、さまざまな
レベルでくつつがえされていく…。

⇒得体の知れないことが進行しているとの不安と恐怖

<奇怪な噂>

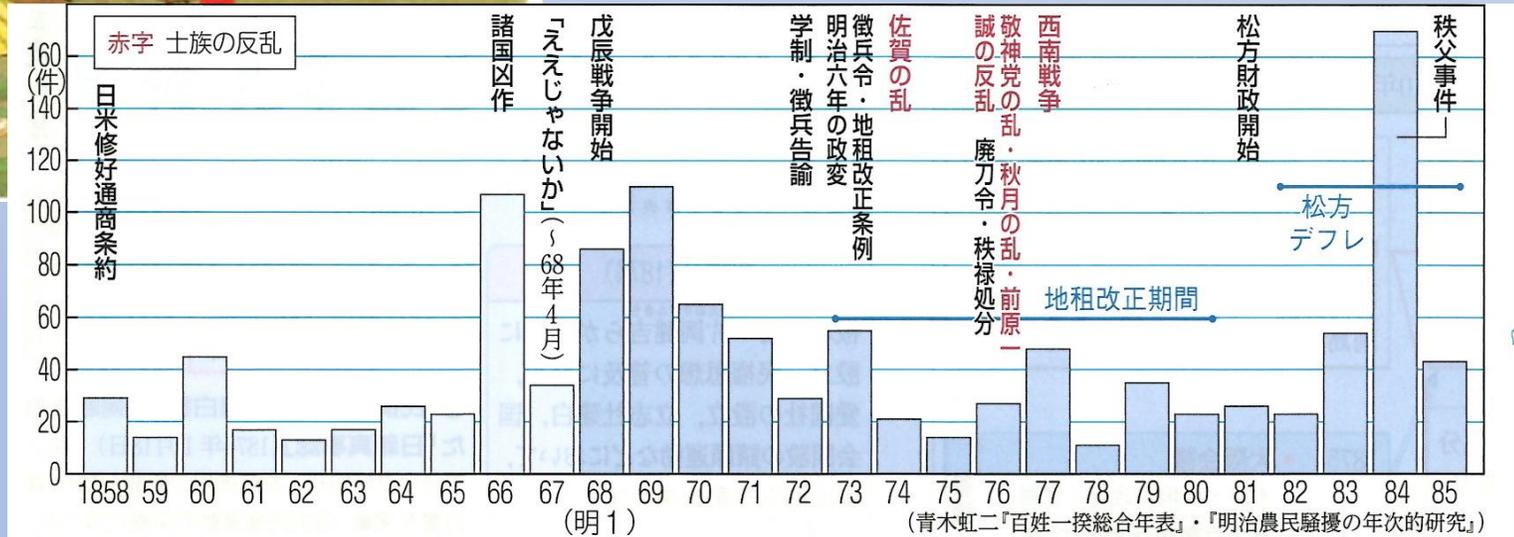
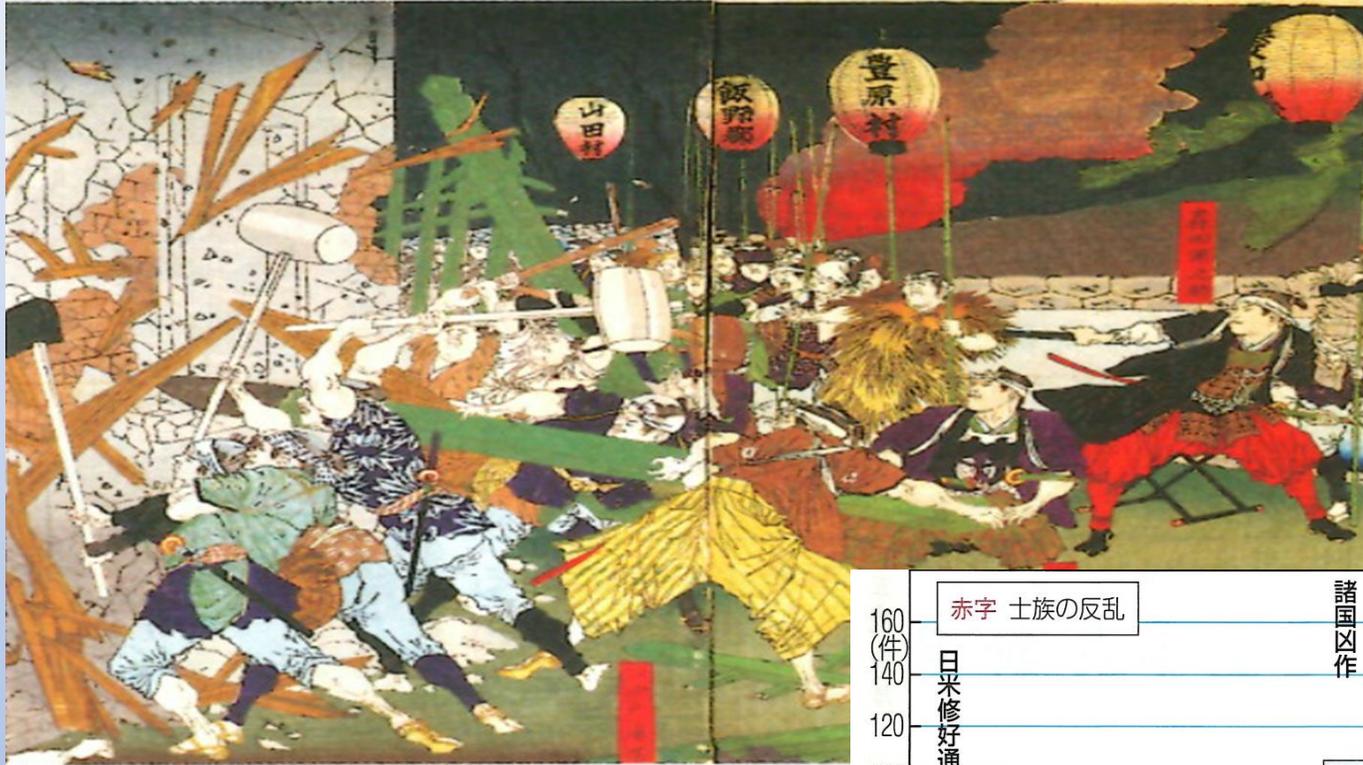
西洋式の病院では患者は鉄串の上で身体の脂を抜かれる

西洋人は小児の生き血を取って薬を練る

白衣のものが、子どもを誘拐し、外国人に売り飛ばす

頻発・大規模化する農民反乱

～江戸時代のルールは完全に失われる～



おわりに～二枚の写真から



天皇像の変化～江戸時代の天皇

江戸時代、天皇は、人々の前に姿を現わさなかった。

必要なときもすだれごしに話を聞く。

御所の奥深くにいて、女官や少数の公家に囲まれて暮らす。

政治や社会、軍事などとも基本的には無関係。

外の話は取り巻きの公家を経由して聞く。



明治天皇の変身・東京奠都

- 列強外交団との謁見(1868年2月)
→ 信任状を受け取る「**国家元首**」
- 大坂巡幸…大久保らと面会
- 東京奠都…**宮廷勢力から天皇を切り離す。**
- 「忠臣」「孝子」に褒賞を与える
= **慈愛に満ちた天皇像**
- 宮中から仏教色を一掃
火葬から土葬に、位牌の撤去
= **現人神・「万世一系神話」**
- 「**大元帥**」化…侍従などに
マッチョな「**武士**」をあつめる



近代的君主としての「天皇」に

・新しい時代の天皇像を演出

・日本を代表する近代的君主。主権者。

・軍隊を率い、国民に命令を下す絶対的な君主（**軍服**）

・外国使節とともにワインを飲みかわし、肉などの洋食をとる文明開化の推進者（**洋装**）

・「皇祖皇宗」からの「万世一系」の日本の神話的支配者（**衣冠束帯**）

◎維新政府・明治政府の正当性を保障する存在

⇒天皇の信任により、政治的・軍事的リーダーは正統性を得る。



明治維新～どのように変わったのか

<原動力>

- ①国内の成熟⇒新たな社会を必要としていた日本。
- ②日本の参加を求める世界＝資本主義の潮流

<その結果として>

(1)江戸時代のさまざまなルール・システムの崩壊・解体

⇒鎖国・幕藩体制・身分制度・村請制・相互扶助の社会

(2)「世界標準(グローバルスタンダード)」の強要・導入

⇒資本主義・主権国家体制・国民国家・自己責任と自由競争

(3)伝統的な日本のあり方と「世界標準」の混合・融合

⇒近代天皇制・国家神道・明治憲法・寄生地主制・財閥

(4)加速する「上からの近代化」とまきこまれる民衆

⇒文明開化・藩閥政治・エリート主義と官尊民卑・「イエ」

明治維新の終期

(イ) 廃藩置県 (1871) …幕藩体制消滅・中央集権国家・藩閥体制

(ロ) 西南戦争 (1877) …政治・社会、安定軌道に。「三傑の死」

(ハ) 秩父事件 (1884) …階級対立の変化
(領主vs封建小農民⇒寄生地主+資本家vs小作人・賃労働者) へ

(ニ) 大日本帝国憲法の発布 (1889) …天皇制国家の整備・確立
寄生地主制と産業資本主義中心の社会・経済に

(ホ) 日清戦争(1894~95)立憲政友会 (1900)
…国民国家完成、明治国家の確立・帝国へ(50年戦争の開始)

<参考文献>

- 井上勝生 『幕末・維新』 『開国と幕末変革』
中村 哲 『明治維新』 石井寛治 『開国と明治維新』
青山忠正 『明治維新』
渡辺京二 『逝きし世の面影』
鬼頭宏 『文明としての江戸システム』
安丸良夫 『安丸良夫集』 『日本の近代化と民衆思想』
『近代天皇像の形成』
牧原憲夫 『牧原憲夫著作集』 『客分と国民のあいだ』
『民権と憲法』 『文明国をめざして』
奈良勝治 『明治維新をとらえ直す』
三谷 博 『維新史再考—公議・王政から集権・脱身分化へ』
『図説日本史通覧』 『詳説日本史図録』 『新詳日本史』